

## 「サライ、サラと呼ばれる」

2020年12月23日

神はまたアブラハムに言われた。「あなたの妻のサライを、サライという名で呼ばず、サラと呼びなさい。私は彼女を祝福し、彼女によって、あなたに男の子を与える。私は彼女を祝福し、彼女は諸国民の母となる。(創世記 17 章 15 節) その日、アブラハムとその子イシュマエルは割礼を受けた。アブラハムの家の男子は皆、家で生まれた者も、外国から銀で買い取った者も、彼と一緒に割礼を受けた。(創世記 17 章 26 節～27 節)

神はアブラハムに、妻サライについても言及された。「あなたの妻のサライを、サライという名で呼ばず、サラと呼びなさい。私は彼女を祝福し、彼女によって、あなたに男の子を与える。私は彼女を祝福し、彼女は諸国民の母となる。」サライは「王女」、サラは「諸国民の母」という意味である。アブラムの名が、諸国民の父・アブラハムと変えられたように、サライの名も、神の祝福を受け、諸国民の母・サラと変えられる。神は、サラが諸国民の母となるべく、男の子を産み、彼女から諸々の民の王が生まれると預言された。アブラハムは、神の前にひれ伏していたが、サラから子どもが生まれると聞いて、心の中で「百歳の男に子どもが生まれるだろうか。九十歳のサラが子どもを産めるだろうか」と笑った。アブラハムは神に、「どうかイシュマエルがあなたの前に生き長らえますように」と応答している。アブラハムは神の言葉が信じられず、女奴隷ハガルが生んだイシュマエルが後継者になるので、彼に祝福をお与えくださいと祈った。彼は、神の前にぬかずいているが、心は、地上の思いに支配されていたのである。このアブラハムの不信は、神を信じていると言いながら、地上の思惑に支配されている私たちの常の姿ではないか。

すると神は、「いや、あなたの妻であるサラがあなたに男の子を産む。その子をイサクと名付けなさい。私は彼と契約を立て、それをその後続く子孫のために永遠の契約とする」と言われた。イサクは「笑う」という言葉に由来している。アブラハムはひれ伏していたが、「笑った」。また、高齢で出産したサラの歓喜の「笑い」も含まれているのではないか。神はアブラハムの不信を超えて、男の子を与えるとされる。そして、アブラハムが求めたイシュマエルにも、「イシュマエルについてのあなたの願いは聞き入れた。私は彼を祝福し、子孫に恵まれる者とし、その子孫を大いに増やす。彼は十二人の族長をもうけ、私は彼を大いなる国民とする」と祝福を約束された。妻サライと女奴隷ハガル、夫アブラムの三人で、世継ぎを得ようとして生ませた、悲しみの子イシュマエルも神は、必ず顧みてくださるという。神は、「しかし私が契約を立てるのは、来年のこの時期に、サラがあなたに子を産むイサクとである」と、神の契約は、サラから生まれてくるイサクとの間に立てられると言明される。イサクの誕生を預言して、神は天に昇って行かれた。

アブラハムは、契約のしるしである割礼を施せという厳命に従った。息子のイシュマエル、家で生まれた者、銀で買い取った者、アブラハム一族の全ての男子を集め、その日、神の命じられたとおり、包皮に割礼を施した。この時、アブラハムは 99 歳で、息子イシュマエルは 13 歳であった。

神の祝福の契約に与り、神の民のしるしを体に刻んだのである。新しい神に生かされる民族の誕生であった。この事実を踏まえ、イスラエル人はアブラハムを「父」と呼び、信仰の模範としていった。神の祝福の「契約」がイスラエル史を貫くキーワードになっていくのである。